

## 本学看護学生の看護職への態度に関する調査（第Ⅲ報）

川崎医療短期大学 第二看護科

林 喜美子 松本 明美 姫井富貴子

(平成元年8月23日受理)

### A Study on the Student Nurses' Attitude toward their Profession (Part Ⅲ)

Kimiko HAYASHI, Akemi MATSUMOTO and Fukiko HIMEI

*Department of Nursing, Kawasaki College of Allied Health Professions  
Kurashiki, Okayama 701-01, Japan*

(Received on Aug. 23, 1989)

**Key words:** 看護学生, 看護職, 態度, 適合性

#### 概 要

本学学生の看護職に対する態度を中心に、それらの特徴と変化の時期を知り、態度形成に影響を及ぼしている要因を明らかにしたいと考えた。

入学時の背景が違う3年課程(1N)と2年課程(2N)の学生の比較と、受験時に看護学校だけを考へていた者(A群)、他の進路をも考へていた者(B群)を取り出して、今回で3回の調査結果を得た。

1Nは1～2年と2～3年に変化する項目内容の違いが明らかになり、教育課程との大まかな関連が見えた。

2Nは、2年間での変化しか見えないが、看護婦免許の取得に向けて、講義と臨床実習が並行した過密な教育計画の中で、ゆとりのない生活をしている学生像が浮かんできた。

B群は、全ての項目で変化の割合が少ない。

#### はじめに

一昨年(1987年)から岡本・松本らの「進路選択状況調査」の調査票を用いて<sup>1)</sup>、本学学生の看護職に対する態度を中心に現在の生活、将来の計画について縦断的な調査をしている。

1) 高校普通科から(1N)と、衛生看護科から(2N)入学してくる学生とでそれぞれの特徴が見えるか。2) 同一集団の学生が、3年あるいは2年の教育課程のどの時期に変化が大きいか。3) 受験時に看護学校以外も考へていた者(目的意識が明確でないとしたB群)と、看護を目指していた者とは、看護職への態度形成に違いがあるかを調べた。今回、3年課程の学生(1N)については入学年次から卒業年次まで

の3年間、2年課程(2N)は卒業生との比較も含めてみる事ができたので、第3報として報告する。

#### 1. 研究方法

##### 対 象

第一看護科(1N)174人と第二看護科(2N)106人で、回収率は100%である。1Nは高校普通科卒業者が96.0%、2Nは高校衛生看護科卒業者が83.0%である。年齢は1・2N共86%以上が18歳から20歳である。

##### 期 間

第1回(1987年)から第3回(1989年)まで年1回7月に実施している。

##### 内 容

- (1) 看護学校入学時の状況
- (2) 看護職に対する態度
- (3) 現在の生活
- (4) 将来の計画

## 2. 結 果

### (1) 看護学校入学時の状況

#### ① 入学決意の時期

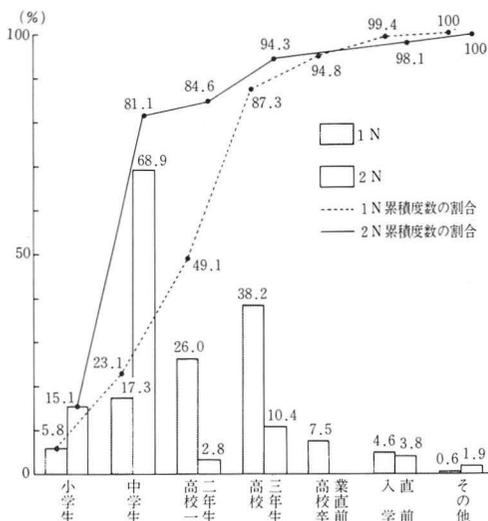


図1 入学決意の時期

1 Nは高校3年が最も多く（'87年-42.6%，'88年-43.2%，'89年-38.2%），過去3年の傾向と大きく変わらないが，今回は中学，高校1・2年の早い時期に決めた者が多くなっている。

2 Nは中学が最も多く（'87年-43.0%，'88年-62.3%，'89年-68.9%）で大きな変化はない。

#### ② 受験時の進路予定

1 Nで看護学校だけ考えていた者は，47.7%，他の進路も考えていた者は52.3%である。2 Nは79.2%と24.2%である。

1 Nは半数以上の者が大学・短大の教育，薬学，英文学部等を併せて考えている。2 Nで他の進路を考えていた者は約1/4で，その中には医療関係でない者も含まれている。

他の進路も考えながら本学への入学を決めた主な理由は，1・2 N共に受験に失敗

表1 受験時の進路予定

進 路 先	1 N	2 N
	(174人)	(106人)
看護学校だけ (本学以外の看護系の 短大，大学も含む)	83 (47.7)	84 (79.2)
他 の 進 路	91 (52.3)	22 (24.2)
大 学	54 (59.3)	8 (36.4)
	34 (37.4)	9 (40.9)
	2 (2.2)	2 (9.1)
	2 (2.2)	3 (13.6)
無 回 答	1 (1.1)	0

( ) 内は%

表2 周囲の反応

賛成反対 の 反 応		父	母	周囲の 大 人	担任の 先 生	友 人
		1 N	賛成 86 (49.4)	賛成 110 (63.2)	賛成 88 (50.6)	賛成 117 (67.2)
1 N	反対 28 (16.1)	反対 33 (19.0)	反対 23 (13.2)	反対 15 (8.6)	反対 18 (10.3)	
2 N	賛成 67 (63.2)	賛成 79 (74.5)	賛成 84 (79.2)	賛成 87 (82.1)	賛成 88 (83.0)	
2 N	反対 11 (10.4)	反対 7 (9.4)	反対 3 (2.8)	反対 6 (5.7)	反対 1 (0.9)	

( ) 内は%

したと，将来性を考えた等である。

#### ③ 周囲の反応

賛成率が高く1・2 Nで共通しているのは担任の先生（1 N-67%，2 N-82%）で，次に1 Nは母（63%），2 Nは友人（83%）である。反対率が高いのは1・2 N共に父母である。進路決定に影響を与えているのは父母と担任の先生であるが，1 Nの方が父母の反対が多い。主な理由は重労働である，性格が向いてない，一般の大学・短大に進学してほしい（父母の意見）等で，'87，'88年と似た内容である。

### (2) 看護職に対する評価

#### ① 進路選択に対する評価

表3 進路選択に対する評価

項目	1 N	2 N
㉔ 間違っていなかったと思う	45 (25.9)	35 (33.0)
㉕ まあ大した間違いはなかったと思う	51 (29.3)	39 (36.8)
㉖ いろいろと問題があったようだ	25 (14.4)	13 (12.3)
㉗ 間違っていたと思う	19 (10.9)	1 (0.9)
㉘ わからない	30 (17.2)	18 (17.0)

( ) 内は%

現時点からみて、本学に入学したことをどう思うか、の回答が表3である。評価段階の㉔㉕を肯定的、㉖㉗を否定的な評価としてみると肯定的(1N-55.2%, 2N-69.8%)で、否定的(1N-25.3%, 2N-21.2%)である。

1Nと2Nでは評価に有意の差が認められる、( $\chi^2=9.49, p<0.05$ )

② 看護職の適合性

6項目から適合性を段階評価したのが表4である。

㉑ 1989年在学生

1・2N共に検定上での有意差はない。また6項目のうち適合性が高い(合っている)のは、「興味・関心」「体力や身体」「仕事観・職業観」「将来設計」の4項目で「学力」「性格」が適合性が低い。これは、過去2年の結果と同じである。

㉒ 学年別変化

在学生(1N3年と2年, 2N2年)とB群の1年間の適合性の傾向がどう変化したかをみた。3年課程では、1年から2年に6項目の変化があり、2年から3年の3項目より多い。変化の時期が1年から2年に一番多いのは昨年と一致する。

B群では、1年から2年に1項目、2年から3年に2項目で、全体に比べて変化項目も少なく、学年の特徴はみられない。

2Nは6項目のうち3項目と1Nに比べて少なく「興味・関心」「体力や身体」「仕事観・職業観」は共通している。

③ 自分の子供に対する態度

子供に看護職をすすめるかどうかについては、1・2N共に「どちらともいえない」「一応勧める」が70%で過去2年間の結果と大体似ている。検定上有意差はない。理由は前者の主なものの子供の自由、後者はやりがいがある、となっている。

表4 看護職の適合性

項目	1 N				2 N			
	合っている	まあ合っている	あまり合っていない	合っていない	合っている	まあ合っている	あまり合っていない	合っていない
興味・関心	43 (24.7)	88 (50.6)	33 (19.0)	10 (5.7)	21 (19.8)	65 (61.3)	16 (15.1)	4 (3.8)
学力	10 (5.7)	97 (55.7)	54 (34.5)	7 (4.0)	6 (5.7)	63 (59.4)	33 (31.1)	4 (3.8)
体力や身体	38 (21.8)	84 (48.3)	40 (23.0)	12 (6.9)	24 (22.6)	58 (54.7)	22 (20.8)	2 (1.9)
仕事観・職業観	54 (31.1)	83 (47.7)	29 (16.7)	8 (4.6)	22 (20.8)	62 (58.5)	20 (18.9)	2 (1.9)
性格	30 (17.2)	84 (48.3)	44 (25.3)	15 (8.6)	17 (16.0)	54 (50.9)	27 (25.5)	7 (6.6)
将来設計	44 (28.2)	90 (51.5)	31 (13.2)	9 (5.2)	19 (17.9)	63 (50.0)	20 (18.9)	4 (3.8)

( ) 内は%

表5 看護職の適合性, 検定結果 (wilcoxon 検定)

項目	1 N 3 年 (全体)			1 N 3 年 (B群)			1N2年全体	1N2年B群	2 N 2 年
	1年次と2年次の比較	2年次と3年次の比較	1年次と3年次の比較	1年次と2年次の比較	2年次と3年次の比較	1年次と3年次の比較	1年次と2年次の比較	1年次と2年次の比較	1年次と2年次の比較
興味・関心	ZO = -3.0239		ZO = -3.3547	ZO = -2.2111		ZO = -2.6651	ZO = -2.9060		ZO = -1.8987
学力	ZO = -3.6640		ZO = -3.2610		ZO = -2.2515	ZO = -1.9654	ZO = -2.8089		
体力	ZO = -2.0624		ZO = -3.2870				ZO = -2.0733		ZO = -2.3373
仕事観		ZO = -2.0136	ZO = -3.8123		ZO = -1.7177	ZO = -2.3471	ZO = -2.7156	ZO = -1.8488	ZO = -1.8600
性格		ZO = -1.6473	ZO = -3.2089				ZO = -1.7569		
将来設計	ZO = -2.4668	ZO = -1.7955	ZO = -4.3451			ZO = -2.4805	ZO = -2.1058		

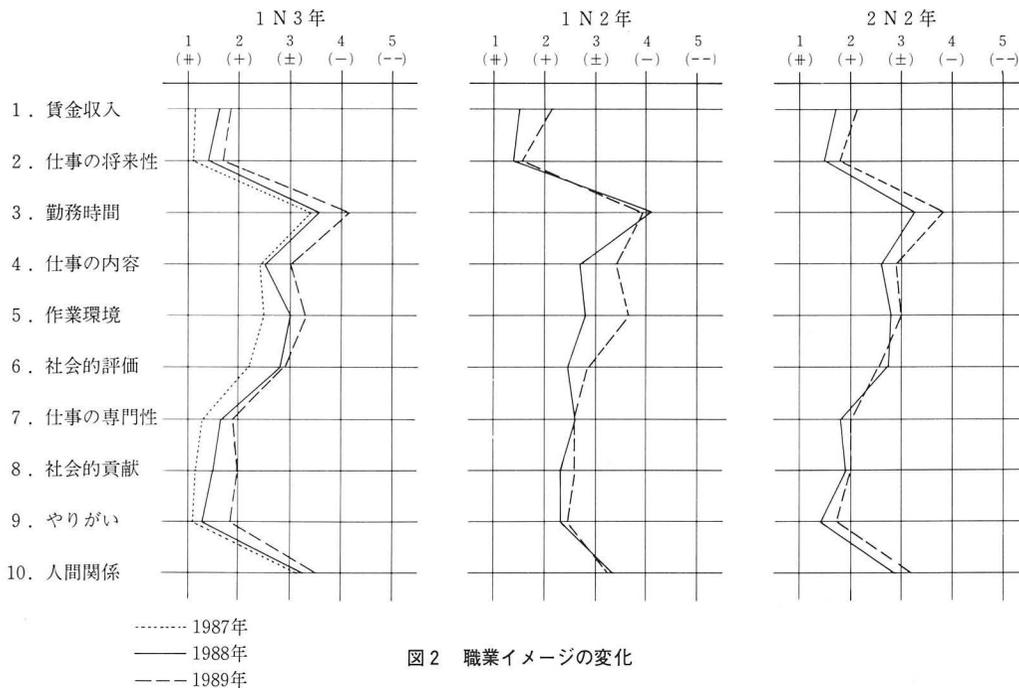


図2 職業イメージの変化

④ 聖職観

「看護婦は尊い職業だ」という意見は自分の考えとどの程度一致するかをみた。1・2Nでの有意差はなく、1年間で変化があったのは、1N3年 ZO = -1.8609, P < 0.05だけである。昨年の結果でも3年次に変化があった。B群の変化はない。

⑤ 看護婦の職業イメージ

① 在学生

看護婦の職業イメージを10項目からみて

5段階で回答を求めた。1・2N共に良いイメージの1位は「やりがい」2位「仕事の専門性」以下「社会的貢献」「賃金収入」で、これは昨年の結果と同じである。

② 学年別変化

2年から3年で最も変化した項目が多い。昨年と共通している項目は、「仕事の専門性」「社会的貢献」「やりがい」である。

1年から2年は6項目で、昨年と項目数は同じであるが、共通しているのは「賃金

表6 職業イメージ, 検定結果

項目	1 N 3 年 (全体)			1 N 3 年 (B群)			1N2年全体	1N2年B群	2 N 2 年
	1年次と2年次の比較	2年次と3年次の比較	1年次と3年次の比較	1年次と2年次の比較	2年次と3年次の比較	1年次と3年次の比較	1年次と2年次の比較	1年次と2年次の比較	1年次と2年次の比較
賃金・収入	ZO = -2.5399	ZO = -1.7141	ZO = -4.4732			ZO = -3.2900	ZO = -4.4820	ZO = -3.7180	ZO = -2.7741
仕事の将来性	ZO = -2.7078		ZO = -4.0309	ZO = -1.8969	ZO = -1.6676	ZO = -2.9606			ZO = -2.1392
勤務時間		ZO = -2.5914	ZO = -2.9968		ZO = -2.6699	ZO = -2.8871			ZO = -1.8582
仕事の内容		ZO = -2.4196	ZO = -2.9190		ZO = -3.1744	ZO = -2.7392	ZO = -2.0572		ZO = -1.7189
作業環境	ZO = -2.6825		ZO = -4.1557			ZO = -2.8982	ZO = -2.2665		
社会的評価	ZO = -2.2468	ZO = -1.6738	ZO = -3.9064			ZO = -3.7171	ZO = -2.1923		
仕事の専門性		ZO = -2.2185	ZO = -4.0681		ZO = -1.9908	ZO = -2.2931	ZO = -2.2931	ZO = -1.7526	
社会的貢献	ZO = -3.7270	ZO = -2.5847	ZO = -5.7491	ZO = -1.5503	ZO = -2.0609	ZO = -3.7796	ZO = -1.7998		
やりがい	ZO = -2.1644	ZO = -3.1973	ZO = -5.3603	ZO = -2.5360	ZO = -2.1278	ZO = -3.3299			ZO = -2.3314
人間関係		ZO = -1.7750	ZO = -2.1228			ZO = -1.8966			ZO = -1.7138

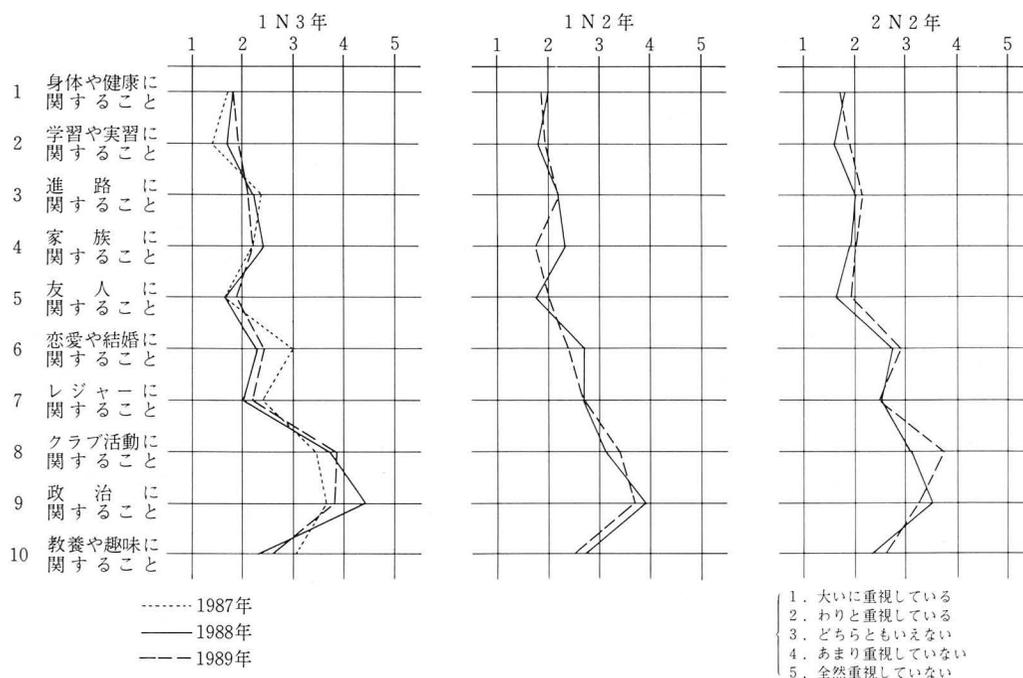


図3 生活上の重視度 年次変化

収入」「作業環境」「社会的評価」「社会的貢献」である。

3年生について入学年次と卒業年次を比

較すると、10項目全部が悪いイメージに変化している。

2Nは1年と2年で悪いイメージに変化

表7 生活上の重視度，検定結果

項目	1 N 3 年 (全体)			1 N 3 年 (B群)			1N2年全体	1N2年B群	2 N 2 年
	1年次と2年次の比較	2年次と3年次の比較	1年次と3年次の比較	1年次と2年次の比較	2年次と3年次の比較	1年次と3年次の比較	1年次と2年次の比較	1年次と2年次の比較	1年次と2年次の比較
身体や健康									
学業や実習	ZO = -2.2197		ZO = -3.9887	ZO = -2.2197		ZO = -1.9979			ZO = -2.2301
進路									
家族							ZO = 2.3193		
友人								ZO = -1.6695	
恋愛や結婚	ZO = 3.4437		ZO = 3.1428	ZO = 3.4437			ZO = 1.7209		
レジャー			ZO = 1.6938				ZO = 2.1614	ZO = 1.8028	
クラブ活動			ZO = -1.7850						ZO = -2.4235
政治									
教養や趣味	ZO = 3.4267		ZO = 2.0125	ZO = 3.4267					

した共通項目は、「賃金収入」「仕事内容」「やりがい」の3項目である。2年間変化がないのは「作業環境」「社会的評価」「仕事の専門性」の3項目が過去2年の結果と共通している。

B群について変化の時期をみると、1年から2年で「賃金収入」「仕事の専門性」の2項目で、昨年と共通しているのは「賃金収入」「社会的評価」「社会的貢献」の3項目である。2年から3年では6項目で、昨年の2項目と共通しているのは「仕事の将来性」「やりがい」である。

### (3) 現在の生活

#### ① 誇りと生活の満足感

1・2N共に学年を追って誇りと生活の満足感は少なくなっている。

1年間の変化をみると、1N3年はZO = -2.2406, ZO = -2.4545, P < 0.05, 2年生はZO = -3.2473, ZO = -2.5304, P < 0.05で共に有意差がある。2N2年生は変化がない。

B群をみると、1N3年では変化はなく、2年は満足感に有意差があった。ZO

= -3.1586, P < 0.05。

#### ② 生活上重視している事柄

日常生活における重視度を10項目からみた。

##### a) 在学生

1・2N共に重視度が高いのは「友人」(1N - 87.9%, 2N - 89.6%), 「身体や健康」(1N - 87.9%, 2N - 87.7%), 「学業や実習」(1N - 82.8%, 2N - 83.0%)で、過去2年の結果と順位は同じで割合もほぼ同じである。

##### b) 学年別変化

10項目に占める割合を昨年と比較すると、1Nは3年では昨年と同じで2年は「家族」「恋愛や結婚」「レジャー」の重視度に有意差があった。

1年から2年の間に余暇重視の傾向がありこれは昨年と同じであった。

### (4) 将来の計画

#### ① 卒業後の進路予定

卒業後看護婦で働くと答えた者は、1N - 65.5%, 2N - 78.3%である。他の進路についても保健婦・助産婦等の看護職であ

表8 卒業後の進路予定

項 目	1 N	2 N
看護婦になる	114 (65.5)	83 (78.3)
看護婦にならない	53 (30.5)	22 (20.8)
進学 (助産婦 保健婦 など)	48 (89.6)	22 (100)
その他	5 (10.4)	0
無 回 答	7 (4.0)	1 (0.9)

( ) 内は%

る。1 Nに少数であるが、語学関係を希望している者がある。

A群(受験時看護学校のみ希望)とB群に差があるか検定したが、有意差はなかった。

② 職場選択の基準

1・2N共に労働条件を重視している。研究的雰囲気を重視している者は少ない。学年別でみても同じであり、1・2Nに有意差はない。

3. 考 察

短大看護科へ入学した事に対して、1 Nは2 Nに比べて否定的評価をしている者が多い。これは、受験時看護学校だけを考えていた者が約半数(2 Nは80%)で、他の進路についても医療関係以外を考えていた者が多い事と、受験失敗・学力不足等希望を断念しなければならない理由から考えて、進路に対する迷いや後悔の気持ちがある者がいると推察できる。2 Nの方が肯定的評価をした者が多いのは、准看護婦免許を生かした進学であることと、本学が中四国九州地区に3校しかない2年制看護短大の1校であり、短大指向の条件を満たしていることがその背景に考えられる。

1 Nの学生は2年～3年よりも、1年～2年の間に大きく変化している。この時期は看護学概論、技術を初めとする専門科目の授業、病院見学実習が済んでおり、看護職の役割や現状にも触れ、各自の看護への方向を確立していく時期である。

看護職の適合性については、1・2Nに共看護職に興味・関心があり、自分の職業観、将来設計とも一致し体力には自信がある反面、学習内容は難しく学力不足を感じるし、性格も向いているとはいえない、という全体像が見える。

国家試験の合格率を過去5年間みても100%であり、卒業後の進路でも結婚のために職に就かない数人を除く全員が看護職で働くこと等から考えて、個人の問題よりも授業科目の過密さや試験時期等の関係が考えられる。教科目の体系化や全体的にゆりのある教育課程にする必要性を感じる。

1 Nでは、2年から3年より、1年から2年の時期に変化が大きい。この間は看護職への方向づけをし、自分の仕事として受け入れていく時期である。一方2 Nは変化が少く、これは本学入学以前に既に病院実習を体験し看護の実際に触れていることも影響しているのではないかと。

B群は学年次による変化の特徴はみられず変化項目も全体に比べて少ない。看護職への客観的な見方ができているのか、動揺が少ない。

看護職への適合性を、子供にも勧めるか、聖職であると考えているかの間でみると、どちらとも言えないという決め難い揺れ動いている状況の学生像が見える。その中でも、看護職を選ぶかどうかは子供の自由であるとしながらも、やりがいがあるので一応勧めたいという意見が含まれており、自分のものとして受け入れようとしている気持ちがある。1 N全体では変化があるが、B群の変化はない。

変化の時期は、2年から3年で病院実習を体験して現場の厳しさ、看護職の役割りと責任等を知り、聖職であるとは言い切れないものを感じている。

職業イメージについては、人間関係、勤務時間という条件を含めた職場の環境は、決して良いとは言えないが、看護職は専門職であり、やりがいのある仕事だと思っている。

1年から2年に比べ、2年から3年の間に変化が大きい。病院で看護婦の仕事を見ており、「勤務時間」「人間関係」「やりがい」といった実体験から得たものの変化が見える。

#### 4. ま と め

1) 1Nに変化が見える時期を、大きく1～2年、2～3年に分けてみると、進路選択に対する評価、適合性、生活の満足感は1～2年に変化する。職業イメージ、聖職観は2～3年に変化する。

第Ⅱ報で、1N 2年で多くの項目にマイナス面の変化があったとしているが、今回の調査でも同じ結果を得た。

2) 2Nは受験の段階から、准看護婦免許を生かした看護婦免許の取得という方向づけができてきていることと、教育期間が2年ということもあって、変化の時期は明確に見えない。1Nに比べて、看護職への態度形成と教育内容、方法との関係も明らかではない。生活の重視度から、1Nの家族、恋愛・結婚、レジャーの(+)への変化があるのに比べて、反対にクラブ活動に(－)の変化をしていることは、講義と実習に追われ、周囲に目を向けるゆとりもなく、国家試験合格を目指して、ひたすら歩む学生の姿が見られる。

3) 1NB群は全体に比べて変化の度合いが少なく、時期にも特徴はない。必ずしも自分の目的ではなかったという背景もあるのか、看護を客観的な目で捉えている。調査上では安定した群に見えるが学習成績や生活場面での適応性等について実態をみる必要がある。

#### 5. お わ り に

本学看護学生の看護職への態度に関する特徴と変化の時期、3年課程においては受験時に看護学校以外も考えていた人たちを取り出して全体の変化と比べてみた。3回の調査で変化の時

期や特徴を過去の結果と検証することができた。看護婦養成を目指す過密な教育課程の中で、学生自らが看護職への適合性を身につけていく懸命の姿が浮かんできた。来年度からゆとりある教育を目指して教育課程の組み立て、内容の検討がされている。改正の主旨に添った適切な運用をすることで今回の報告を生かしたい。

#### 6. 謝 辞

結果の統計的処理について、ご指導くださいました本学統計学、数学の大森健三助教授に深く感謝いたします。

#### 引用文献

- 1) 岡本英雄, 松本純平: 進路選択状況調査報告—看護学生の進路選択と進路設計, 日本看護協会調査研究誌, 報告 No. 4 (1976)

#### 参考文献

- 1) 山本よし系, 他: 看護学生のアイデンティティ形成過程, 第16回日本看護学会集録誌, 140～142 (1985)
- 2) 松本光子, 他: 看護学生の進路決定過程について, 看護教育, Vol. 13 No. 1, 54～58, 医学書院 (1972)
- 3) 松田とし子, 他: 本学院における入学者の実態と適応状況—共通一次試験受験者との比較, 第13回看護教育集録誌, 154～159 (1982)
- 4) 高森スミ: 看護学生の選職意識に関する実態調査, 東邦大学医療短期大学紀要, 1～17 (1984)
- 5) 松本純平, 岡本英雄: 進路選択状況調査報告—看護学校3年生の職業に関する意識および将来の計画, 日本看護協会調査研究誌, 報告 No. 16 (1981)
- 6) 松下由美子, 他: 看護学生における適性と適応に関する調査と考察, 東邦大学医療短期大学紀要, 19～25 (1984)